



## Contents

特集：第3回総会開催 NUAL Third General Meeting	1	大学ニュース Nagoya University News	13
同窓会ニュース NUAL News	5	事務局からのお知らせ From the NUAL Office	16

## 特集 第3回総会開催 NUAL Third General Meeting

全学同窓会第3回総会・講演会・懇親会が平成16年(2004年)10月17日(日)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて、約500名の会員が参加して盛況のうちに開催されました。総会と講演会の間に、男声合唱団 OB 約70名による合唱が行われ(写真)、また、豊田講堂ロビーでは、名古屋大学キャンパスの歴史の変遷や最近建設された建物のパネルや模型が展示されました。

The Third General Meeting of Nagoya University Alumni Association was held on October 17th, 2004, at the Toyoda Auditorium with about 500 participants. After the meeting, the participants enjoyed a song per-



formance by more than 70 Alumni, former members of the Meidai Male Chorus. At the lobby of the auditorium, panels and photos were exhibited describing and illustrating the history of Nagoya University.

総会あいさつ Welcome Addresses



**豊田章一郎**  
Dr. TOYODA Shoichiro  
**同窓会会長**  
President of NUAL

まず、最初に皆様と名古屋大学全学同窓会の創設2周年をお祝いしたいと思います。今日、卒業後、初めて母校においでになった全学同窓会の会員の方もおられると聞いておりますが、このキャンパスも樹木が大きくなり、新しく高層の建物も続々と建っており、母校のキャンパスの変わり様に驚かれたと思います。

名古屋大学全学同窓会では、一昨年には、丹羽副会長などの尽力により関東支部が立ち上がり、東京フォーラムに代表されるように、関東地区での名古屋大学と産業界との産学連携などで、全学同窓会が名古屋大学に積極的に協力しています。また、平成8年4月に浜松を中心に静岡県西部に在住または在職の名古屋大学の卒業生の同窓会として設立されていた遠州会に全学同窓会支部として、昨年加わっていただきました。また、来る11月17日には、関西支部の立ち上げも予定されております。関西支部の設立後は、中国、タイおよびインドネシアなどの海外支部設立の計画も持っております。寄附講義や学生支援などで、まだ、わずかずつではありますが、着々と全学同窓会の活動を進めております。

一方、名古屋大学は今年の4月に国立大学法人として新たな一歩を踏み出されておりますが、大学を取り巻く厳しい環境の中、COEの獲得や産学連携のための東京フォーラムおよび関西フォーラムの開催など、非常にながらばっておられ、卒業生として大変喜んでおります。この7月には、平野総長のご決断により、名古屋大学の全ての卒業生・修了生に対して「名古屋大学および名古屋大学全学同窓会からのお知らせとお願い」を出し、名古屋大学と全学同窓会の状況と決意をお知らせすることができました。今後

とも、このような活動を是非とも継続していただきたいと思っております。

名古屋大学が国立大学法人になっても、名古屋大学の伝統である清新で自由闊達な気風は変わることがないと思っております。国立大学法人化によって、個性化と自律性が求められる名古屋大学は、社会との連携がますます必要であり、そのために大学と卒業生との密接な連携協力が強く求められていると思います。名古屋大学全学同窓会が設立時の理念として掲げた「大学と社会を結ぶ必須の組織」となるようにますます皆様と一緒に努力したいと思っております。

名古屋大学は全学同窓会会員の皆様方と連携協力して、「名古屋大学学術憲章」にありますように、教育、研究の創造的な活動を通じて、世界屈指の知の創成と将来を担う勇気ある知識人を育成することによって社会に貢献していただきたいと考えております。地域社会の文化、政治、経済、産業などさまざまな課題の解決や将来の発展に向けても努力していただきたいと思っております。

前回の総会でも申し上げましたが、私は、具体的には名古屋大学に常に3つのことを期待しております。1つ目は、大学としての国際競争力の強化に向けた取り組みであります。2つ目は、今厳しい状況にあります日本の国を変える大学を目指してほしいということです。自律性を持った大学が変われば人々の意識も変わり、国も変わっていくはずで。3つ目は、高い志と情熱を持った人材、すなわち将来社会のリーダーとして活躍できる人材の育成です。高い目標を掲げ、まじめに真剣に、そして創意工夫を重ね努力して、部下や仲間をリードしていく自律性のあるリーダーの養成です。名古屋大学のアイデンティティーをしっかりと確立して、名古屋大学の強みを伸ばし、弱みを克服していく改革に、名古屋大学と全学同窓会は手を携えて立ち向かいたいと思っております。

名古屋大学全学同窓会は、財政基盤の確立など、まだまだ多くの問題を抱えておりますが、ここにお集まりの皆様方を始めとして、全学同窓会会員と一緒に、名古屋大学全学同窓会の設立理念を達成したいと考えておりますので、なにとぞ物心両面のご協力の程、お願い申し上げます。

会務報告

懇親会



(伊藤代表幹事)

(左:松尾前総長 右:柴田副会長)





平野眞一

Dr. HIRANO Shin-ichi

名古屋大学総長

President of Nagoya University

ただ今紹介のありました、総長の平野でございます。日頃、皆様方が本学の運営を暖かく見守っていただいていることに感謝いたします。今日は、豊田会長はじめ役員の方々、全学同窓会の皆様方に大勢お集まりいただきまして、大変ありがたく感謝しております。また、ただ今は豊田会長から過分のお言葉をいただきまして感激している次第でございます。

ご存知のとおり名古屋大学は本年4月1日をもちまして、国立大学法人名古屋大学となりました。大学の個性化、多様化が進む中で、人的交流を通じて社会に対して大きく貢献できるよう努めて参りたいと存じます。

名古屋大学は、自由闊達で、国際性豊かな学風のもと、世界第一級の研究成果を挙げるとともに、専門教育の面はもちろんでございますが、教養教育の面におきましても非常に高い評価を得ております。これは偏に同窓生の方々のご活躍とご関係各位のご支援、ご鞭撻のおかげであると感謝いたしております。

自分が卒業した大学、在学する大学、関係された大学に、愛情や誇りを持っていただくことなくして、今後の名古屋大学の発展はございません。大学を顧みていただけるよう名古屋大学の発展に努めます。名古屋大学全学同窓会を通じて、卒業生、在学生、教職員の皆様が交流を深め、互いに特別な親しみや感情、信頼、さらには助け合いの精神が生まれることにより、名古屋大学は真に社会に開かれた大学として発展していくものと信じております。同窓生に対する大学からの情報発信、サービスなどは、まだ不足している感は否めませんが、今後は最善の努力を尽くしていく所存でございます。

昨年は、12月に関東同窓会の協力も得て、東京フォーラムを開催いたしました。本年は、11月17日（水）に関西フォーラムを大阪国際交流センターで開催するとともに、その際に、全学同窓会関西支部設立総会の開催が予定されております。関西支部の立ち上げによりまして、関東支部、遠州会と合わせまして、3つの支部が設立されることとなり、大変うれしく思っております。さらに、海外におきましても同窓生の会が組織されることになっていると聞い

ております。現在、大学には約1,200名の留学生が学んでおり、精神的な支えになることを期待しております。

ここで少し、最近の名古屋大学の活動状況を紹介させていただきます。

- 本年度は、法学研究科に実務法曹養成専攻（法科大学院）を設置し、また、工学系のセンター等を統合し、エコピア科学研究機構を設置しました。
- 高等研究院及び教養教育院においても教育・研究を活発に展開しております。
- 21世紀 COE プログラムについては、3年続けて採択され、現在14件の拠点プロジェクトが活動しています。
- 特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）は、2年続けて採択されております。
- 国際交流につきましては、全182の外国の大学・機関等と大学間協定又は部局間協定を結び交流を図るとともに、アカデミックコンソーシアム21— AC21（提案校は本学であり、また、常にヘッド・クォーターとして拠点を置いています。）の活動といたしましては、第2回の国際フォーラムをシドニー大学と共催（シドニー市）で、7月に開催いたしました。次回は、2006年にイギリス・ウオーリック大学で開催の予定です。
- 産学官連携活動及び社会連携・貢献事業も積極的に推進しています。
- その他としましては、新しい建物として、IB 電子情報館、野依記念物質科学研究館、野依記念学術交流館、理学館等が竣工し、経済学部総合館も改修されているところであります。このようなことから、学内の雰囲気が変わったと感じられるとともに、10月6日には地下鉄が環状線として開業し、また、昨年12月には、名古屋大学駅が設置され、とても交通の便がよい大学となっております。さらに、この地域の多くの方々にもキャンパスを訪れていただいております。

名古屋大学が、日本はもちろん世界の一流の大学にならねばならないということはよく承知をいたしております。同時に地域の方々との強い連携を図り、大学をさらに発展させていきたいと考えております。

全学同窓会と本学との関わりにつきましては、本学の中期目標及び中期計画の中に、社会連携を推進するために、全学及び部局同窓会の強化を図り、同窓会を介して社会との連携に大いに努めるとうたっております。

どうか広い意味での母校に対するご助言、ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げまして感謝の言葉といたします。今後ともよろしく願いいたします。

## ■ 総会参加者の声 Comments from participants

総会では参加者全員にアンケートを配布し、総会や同窓会、大学に対してご意見やご希望をお聞きしました。回答のいくつかを、回答者の承諾を得てご紹介いたします。

In the meeting, a questionnaire was distributed to all participants asking about their opinions and wishes regarding the conference itself, the alumni association, and the university. Here are some of the replies.



下村 尚一  
(1949年医学部卒)

総会では、新しい同窓会の方向が示されたと思います。ただ具体例に乏しく空回りの感もありましたので、今後は新しい同窓会の成果を発表しながら、その方向を探求・提案していくべきだと思います。産学連携の支援をし、その成果の公表の場とすることを希望します。また、各学部間の連携を密接にし、相互扶助の関係を築いていくとよいと思います。



市野 晴美  
(1975年文学部卒)

同窓会総会の日、30年前の学生時代をととても懐かしく思い、素晴らしい様変わりに驚嘆しました。でも殺風景な玄関ホールも見られ、ここを通る学生たちの気持ちを明るくする植物を置きたいと感じました。亡き母の親友で春日井の「花元」を経営している義母と、ランの鉢や「幸福の木」などを母校に寄贈させていただくことにしました。12年前、車の事故で両親と叔母を亡くし、私だけ木にひっかかって奇跡的に助かったのですが、今、親孝行の真似事をさせていただきながらこの義母と共に、人を幸せにする花を母校に飾っていきたいと思います。



\*市野様からは以前より、学内のあちこちに植物をご寄贈いただいております。感謝いたします。(全学同窓会)



許斐 ナタリー  
(2002年経済学研究科修了)

よく準備された総会で、関係者の皆さんに感謝します。夜の懇親会には出席できませんでしたが、総会自体には活気の足りなさを感じました。同窓会の将来のためには、若い卒業生も、現在の学生も、企業の方も、そして名古屋大学の国際化を背景に、留学生卒業生も興味を持てるような内容にしていくことが必要だと思います。それには総会をもっと明るい雰囲気、様々な企画を通して方向性を示し、活動成果を報告しながら、同窓会をアピールすべきだと思います。今後の同窓会の発展に大いに期待しています。

### 神田谷 得子 (1956年文学部卒)

総会では合唱団の演奏が聴けてよかったです。今後よい講演や、情報として優れた展示、オーケストラやコーラスなど楽しめる企画を併催しながら開催されることを望みます。私の在学当時は兵舎で学んだことを思い出すと現在の状況は夢のようです。今後の名古屋大学には、図書館などの施設を開放し、大学を訪れる同窓生社会人をさらに親切に受け入れる大学になることを期待しています。



大伊 和雄  
(2000年多元数理科学研究科修了)

よい総会でした。今後の全学同窓会では、大学の現況報告をしていただき、フォーラムやイベントを2年に1回ぐらい企画・実施していくとよいと思います。また、名古屋大学には、野依教授に次いでさらに物理学賞や医学・生理学賞の受賞者が出ることを期待しています。数学のフィールズ賞の受賞者出現も望んでいます。

アンケートには他にも様々なご意見をいただきました。

- ◇ 総会当日について、準備や進行がよかった、出席者が少なく活気がない、アットホームな雰囲気にするとよい、会場の音響がよくなかった(大昔の運動会のような!?)、等の意見がありました。
- ◇ 同窓会の位置づけに関して、特に全学同窓会、部局同窓会、地域同窓会が混在する中で、支援会費制度を一元化すべきである、また、全学同窓会の役員として学外の同窓生たちが活躍すべきである、部局同窓会の長が評議員になる形にするとよい、などがありました。若い卒業生や現役学生にも魅力がある同窓会を望む声、卒業生が足を運び易い企画を年に何回かするとよい、ホームページを充実させるとよい、等の意見がありました。
- ◇ 名古屋大学に対しては、アクセスがよくなり学内が整備されたことに関する喜びの声、同時に地域にも開かれた明るいイメージの大学になることへの期待などが述べられていました。

いただいた意見を参考にしながら今後の同窓会運営について、皆さんと共に考えていきたいと思っています。皆さんの応援を、今後ともどうぞよろしく願いいたします(巻末16ページの連絡先へお寄せください)。

## 関西支部設立 NUAL Kansai Branch founded

全学同窓会関西支部設立総会が、平成16（2004）年11月17日（水）、大阪国際交流センターにおいて、会員約140名の参加を得て開催されました。

全学同窓会は、平成15（2003）年3月に関東支部を設立し、さらに関西支部を立ち上げるため、今年3月末に関西地区で第1回、設立準備会を開催し支部設立の準備を進めてきましたが、関西フォーラムが11月17日に大阪で開催されることになったため、同日に関西支部設立総会を開催することにしました。

設立総会では、太田和宏全学同窓会副会長（株式会社デンソー特別顧問、トヨタ紡織株式会社相談役）からあいさつがあった後、平野総長から、全学同窓会への活動に関する謝意と大学の最近の主な活動が紹介されました。次いで、伊藤代表幹事（附属図書館長）から、全学同窓会の活動と設立までの経過報告が行われた後、関西支部長等の役員選出にはいり、笈哲男三洋化成工業株式会社社長が関西支部長に、併せて他の支部役員についても承認されました。

関西支部設立にあたり、関西支部長に選出された笈氏



太田全学同窓会副会長



笈全学同窓会関西支部長

から就任のあいさつがあり、設立総会は無事終了しました。総会終了後は、関西フォーラムとの合同の懇親会が行われ、産学連携交流会参加者も交えて、歓談が行われました。（名大トピックスより抜粋）

The NUAL Kansai branch had its opening meeting on November 17th, 2004, at the International House Osaka, with about 140 participants. The meeting was held together with the Nagoya University Kansai Forum.

### 関西支部幹事名簿

平成16（2004）年11月17日現在

役員の区分	氏名	部局同窓会名	卒業(修了)年	現職
支部長	笈 哲男	工学部・工学研究科同窓会	昭33	三洋化成工業(株)代表取締役会長
事務局長	鳥井 剛	工学部・工学研究科同窓会	昭54	(株)建設企画コンサルタント常務執行役員 大阪事業本部技術センター部長
事務局	深澤 徹	法学部同窓会	昭49	三洋化成工業(株)大阪支社総務課長
幹事	池田昭義	キタン会	昭26	ホテルオークラ神戸衣裳サロン顧問
	和田啓志	キタン会	昭33	奈良 YMCA 顧問
	黒田幸雄	法学部同窓会	昭28	アイコム(株)
	坂上卓生	工学部・工学研究科同窓会(電気)	昭35	(株)エネゲート相談役
	清水義一	工学部・工学研究科同窓会(機械)	昭31	東山会関西支部支部長
	青山信英	工学部・工学研究科同窓会(機械)	昭32	青山コンサルティング(株)代表取締役
	柘植章英	工学部・工学研究科同窓会(土木)	昭41	
	安田武文	工学部・工学研究科同窓会(応化)	昭34	
	中井昭彦	農学部同窓会	昭30	
	加藤壽郎	農学部同窓会	昭43	田岡化学工業(株)代表取締役社長

## 活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員たちの各界における活躍ぶりをご紹介します。第一回目は、名古屋大学助教授で、人気作家でもいらっしゃる森博嗣先生に紙上インタビューを、そして遠くブラジルで教鞭をとられる Anamaria Sousa Silva さんに寄稿をお願いしました。

In this column “NUAL People in Action”, we will have contributions from persons related to our university, carrying out relevant activities all over the world.

In the first issue we will hear from Dr. MORI Hiroshi(\*), associate professor and very popular novelist, and Dr. Anamaria Sousa, alumni of our university working in Brazil.

(\* ) MORI Hiroshi is associate professor at the Graduate School of Environmental Studies and at the same time one of the most popular authors in Japan today. He has written more than 100 novels since his debut in 1996. Some of his novels may remind you of the happy days on the Nagoya University Campus.

### 森 博嗣先生 MORI Hiroshi 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻・助教授

1957年愛知県生まれ。工学博士。1996年、『すべてがFになる』（講談社文庫）で第1回メフィスト賞を受賞し、ミステリ作家としてデビュー。同作に始まるS&Mシリーズ、その後の『黒猫の三角』（講談社文庫）に始まるVシリーズが爆発的ヒットとなり、ベストセラーを続出。出版部数は既に600万部を突破している。両シリーズ以外では、『そして二人だけになった』（新潮社文庫）、『女王の百年密室』（幻冬舎文庫）、『スカイ・クロラ』（中央公論新社）、『墜ちていく僕たち』（集英社）などがある。さらに、小説以外にも、『臨機応答・変問自在』（集英社親書）、『猫の建築家』（光文社）、『星の王子さま』（文藝春秋）、『100人の森博嗣』（メディア・ファクトリー）、『MATEKI』（PHP 研究所）など、エッセイ、絵本、詩集、写真集など多才。日本推理作家協会会員。本格ミステリ作家クラブ会員。ホームページ『森博嗣の浮遊工作室』（<http://www001.upp.so-net.ne.jp/mori/>）

Q. 作家になれるまでの道のりはどのようなものでしたか？

A. 突然でしたね。それまで小説なんか書いたことはなかったし、読むことも減多になかったのですが、突然書いてみようと思って書きました。それだけです。小説家になろう、と思ったかどうかは不確定ですが、趣味や楽しみで書いたものではなく、最初から人が読むもの、つまり製品として作りました。だから、一番近い感覚は「バイト」あるいは「内職」です。予想外にうまくいきました。不思議でなりません。

Q. 「やりたいことで大成する」ためにはどのような姿勢が必要だとお考えでしょうか？

A. よくわかりませんが、とにかくやるしかないでしょう。小説家を志す若者がよく訪ねてきますが、アドバイスは一つしかありません。「書きなさい」です。人の作品を読む暇があったら書きなさい、と。こんなところへ来ている暇があったら書きなさい、と。ただし、書けば必ず大成するかどうかはわかりません。才能があるかどうかは、10作くらい書けばわかるでしょう。

Q. 作家と研究者という二足のわらじをはかれるのは大変なことではありませんか？

A. 二足のわらじを履いている感覚はありません。大学運営や学会活動なんかで、イベント的な企画をしたり、営業的な雑用をしたり、つまらない会議に出たり、といったことの方がずっと研究から遠いワークです。大学の先生たちは、みんな二足のわらじではあ

りませんか？それに比べたら、創造的頭脳を使うという意味では、小説の執筆の方が研究活動により近い作業だと思います。つまり、僕はシンプルにできるだけ一つのことをしよう、余計なことはしないでおう、と心がけているだけです。

Q. 作品の中には、N大学工学部の研究室風景がよく登場しますが、小説の登場人物にはモデルが存在しますか？

A. 実在の人物をモデルにしたことは一度もありません。

Q. 先生がお好きなN大学（周辺）の散策ルートや、作品のプロットが生まれた記念スポットがありましたら、ご紹介ください。

A. 自分の研究棟から出るのは、他の建物で会議があるときだけです。キャンパスを歩いたりすることはありません。生協で食事をしたこともありません。朝食も昼食もとらないので。

Q. 名古屋大学での思い出をお聞かせ下さい。

A. 私が学生のときにはもっと敷地が広がったので、方々でソフトボールができました。樹を沢山切り倒して、建物を造っているのが残念です。

Q. 今後のご活躍の予定は？

A. これまでも活躍などしていません。ずっと同じです。忙しいことは、みっともない恥ずかしいことだと認識しているので、できるだけ忙しくないように改善した

と思います。

Q 大学や同窓生にメッセージがありましたらお願いします。

A. いえ、特にありません。普通ないのでは？（笑）  
しいて言うならば、昔は名古屋大学には「建築学

科」がりましたが、今はもうありません。自分がいた組織の名前が消えることは非常に寂しいことだし、組織も人も歴史に残るのは実は「名前」だけである、と僕は考えています。どうか名前を大切にしてください。



書店に並ぶ著書の数々

同窓会から  
一言

森先生は3月で大学を去られますが、ますます素晴らしい作品を創作していただけますようお願い申し上げます。

## 名大、ありがとう Thanks to Meidai

アナマリア・ソウザ・シルバ Anamaria Sousa Silva

国際開発研究科2000年修了、ブラジル国立マラニオン大学客員教授・弁護士



It is now spring in Brazil but I am actually reviving the Autumn in Japan. My mind still feels its particular climate, made of beauty and poetry. The wind blowing slowly the reddish leaves on the ground. It should be the momiji season, when the sun gives us a gorgeous show as the day is finishing. I have very good memories from Japan, most of them related to the time I spent at Nagoya University.

Having received a Mombusho scholarship, I arrived at Meidai in April of 1994. Of course, I had many expectations about how would life be there, as coming from a country with very different cultural backgrounds. I was then positively surprised to see that everything had been prepared to receive us. I still remember the first day I arrived at the Kaikan, and some Japanese students came to us to show everything around: post office, supermarket, subway station, etc. Until today I exchange emails with some who became my friends and remember with nostalgia that wonderful time.

After the "Six-month intensive Japanese Course", I spent most of my time studying at GSID, from where I got my Master's and Ph.D. When I think of Meidai, the first thing that comes up to my mind is the hard time of researching. Although hard, it contributed a lot for my current position as a professor. I still delightfully remember that in the graduation ceremony in March, 2000, I was honored to receive diplomas on behalf of all the students at GSID.

I am always encouraging my students to try the possibility of studying in Japan. Some went, and successfully completed the task, while one resigned due to, I believe, the long distance existing between Japan and Brazil - geographical and culturally. In this sense, promoting exchanges does not only yield pleasure but requires a great deal of responsibility, compromise and comprehension.

I felt I should be sharing my experience with other people. And the most important is that at Meidai I became better - a better student, a better friend, a better professional and, especially, a better human being. Thanks, Meidai!

これを書いている今、ブラジルは春です。日本は秋。赤い落ち葉が風に優しく吹かれ、紅葉が夕日に映える美しい秋を今も感じます。日本での生活、とりわけ名古屋大学を懐かしく思い出しています。

文部省奨学金受給が決まり、1994年4月名大に来ました。全く異なる文化をもった国へ来るにあたっては楽しみや不安がありました。留学生会館に入居したその日から日本人学生たちが周辺の店や地下鉄を案内してくれたりし、私たちを受け入れる準備が整っていることに驚きました。友だちになった学生たちとは今でも連絡をとりあっています。

6ヶ月の日本語集中研修の後、国際開発研究科で研究し、修士号、博士号をとりました。この時代の研究生活は厳しいものですが、これが現在の教員職に大いに役に立っています。2000年3月の修了式で研究科代表で学位記をいただいたことは印象深い思い出です。

自分が担当する学生たちにも、いつも日本留学を勧めています。実際留学して成果を挙げた学生もいますし、地理的にも文化的にも遠いことが原因で留学を中断せざるを得なかった学生もいます。交流を推進することは喜びでもあります。責任と理解が必要です。

自身の留学経験を多くの人々と分かち合っていると思っています。最も大切なのは名大で自分自身が成長したこと。よりよい学生として、友だち、プロフェッショナル、そして何よりもよりよい人間として成長しました。名大、ありがとう！

(和文要旨：広報委員会)

## 全学同窓会ラウンジオープン！ New NUAL Lounge opened

全学同窓会事務局は、設立以来、名古屋大学東山キャンパス内、豊田講堂会議室の一室を大学から提供いただき、利用してきましたが、場所が会員の方には分かりにくいことや、歓談や打ち合わせのスペースがなかったことから、大学に新しい場の提供をお願いしておりました。

このたび、広報プラザ内に同窓会が活用できるスペースを整備していただき、本年12月から全学同窓会ラウンジとしてオープンすることになりました。

全学同窓会ラウンジは、同窓会の事務スペースのほか、会員の方に利用いただく打ち合わせスペース、情報検索用パソコン等があります。

また、広報プラザ内には、大学刊行物コーナー、研究情報コーナー、生涯学習情報コーナー、入試情報コーナーがありますので、おいでいただいた会員の方にご利用いただくことができます。

全学同窓会の事務局は、伊藤義人代表幹事の統括の下、同窓会専任の1名と、名古屋大学総務広報課からの2名（兼務）の3名のスタッフで、名簿管理、会費管理、

会議の開催、行事の開催、会員への情報発信などの業務を行っています。もちろん、同窓会幹事や各種委員会委員、会員ボランティアの方々のご協力と、大学の支援に支えられていることはいうまでもありません。

東山キャンパスにおいでの際は、気軽に全学同窓会ラウンジにお立ちよください。（開館：平日午前9時から午後5時まで）

The NUAL Lounge was opened in December 2004 in the Nagoya University Information Plaza at Higashiyama Campus. This NUAL Lounge provides spaces for meetings, PCs, university booklets, and other information material to all NU members and alumni. The NUAL Lounge is open from 9:00am to 5:00pm, Mondays-Fridays.

### 事務局スタッフ

#### ◇名古屋大学全学同窓会事務局

TEL/FAX 052-783-1920

加藤智恵美

設立当初より同窓会の事務を担当しております。皆様にとって同窓会が、より身近で充実したものになる事を目指していきたいと思っております。また、少しでもそのお役に立てられればと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

#### ◇名古屋大学総務企画部総務広報課

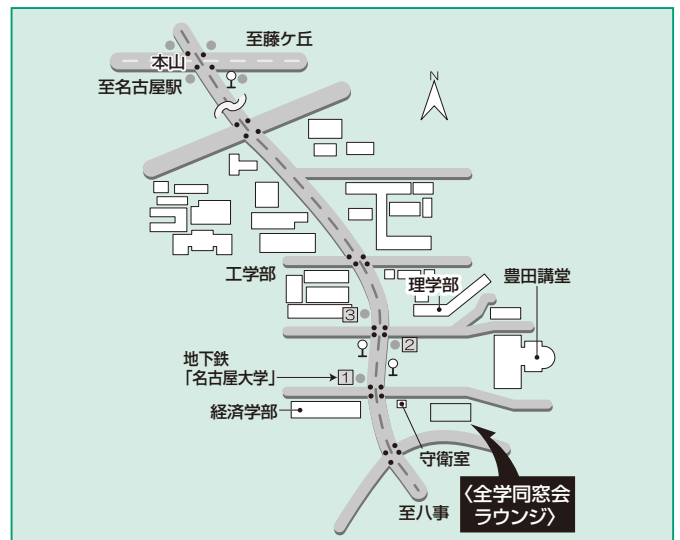
TEL: 052-789-5759 FAX: 052-789-2019

竹谷友子

平成15年4月から、全学同窓会を担当しています。名古屋大学勤務歴はすでに20年です。個人情報に関する以外、何でもお尋ねくださいといたいたいところですが、何しろ広くて大きな名古屋大学なので、すぐにお答えできないことも多々あります。頼りになる事務局スタッフを目指し、奮闘中ですので、よろしくお祈りします。

水野まなみ

平成15年8月から全学同窓会の事務をお手伝いしています。組織が大きく、なかなか会員の皆様と接する機会がなく残念ですが、事務局として活動をしっかりサポートしていきたいと思っております。よろしくお祈りします。



左から 水野、加藤、竹谷各スタッフと伊藤代表幹事



ラウンジの様子



## 支部・部局等同窓会便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。伝統ある同窓会も、新たに設立される同窓会もありますが、それぞれが全学同窓会とも連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

### 関東支部 NUAL Kanto Branch

#### 1. 今までの経緯

関東在住の同窓生約15,000名を対象に、平成15年3月に設立されました。各部局の関東支部役員などからなる幹事が、毎月、学士会館にある、名古屋大学東京連絡所に集まって、幹事会を行い、大学の情報提供・国立大学の法人化後の活動計画について、報告・議事を重ねています。

#### 2. 今年度の計画

平成17年1月27日(木)に、大学と共催の東京フォーラム(ユビキタスとナノテク分野)と総会を行いました。場所は、学士会館の2階で、産学連携交流会も行いました。

#### 3. 今後の計画

産学連携による知的財産のマーケティング活動や大学発ベンチャー支援活動の具体策を検討中です。東京フォーラムは、分野別に毎年度ごとに、開催予定です。

新卒業生の皆さんのご参加を歓迎します。

### 文学部 Letters

文学部・文学研究科の卒業生・修了生の皆さんへ

文学部・文学研究科同窓会は2003年3月に、それまでの「青桐会」を引き継ぐ形で、新しく創立されました。同窓会では年1回の総会・懇親会、ニュースレターの発刊のほかに、文学研究科が開催するシンポジウムと連携した活動を行っています。今年度は、3月5日(土)に行われるシンポジウム「公と私の近代」に合わせて、第3回の総会・懇親会を開きます。現在の活動にくわえて、同窓生のつながりと親睦、相互の情報交換などで、どのような活動や支援ができるのか、幹事会を検討しています。サロン形式で会員の話聞く会の開催、「よしみ会」(“同窓のよしみ”)といった名前での会員の活動・趣味・仕事などさまざまな情報のネットワークの形成などといったことを考えているところです。ぜひ同窓生の皆さんのご意見をお寄せいただき、またご協力をおねがいします。

#### ■連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町名古屋大学文学部事務室気付 文学部・文学研究科同窓会  
TEL: 052-789-2226 FAX: 052-789-2272

### 教育学部 Education

本会は教育学部とともに五十年余りの歴史を歩み、大学院教育発達科学研究科(旧教育学研究科)の同窓会を兼ねてきました。具体的な活動として、会員名簿の管理、役員会・総会の開催、毎年の通信発行、近年のホームページ運営、本学部・研究科の教育環境整備への協力などがあります。昨年3月の学部卒業式・大学院修了式では大勢の同窓生に入会していただきました。

最近では本会の活動をさらに充実させるべく、昨年6月の総会で同窓会会則案について審議し、速やかに会則を成立させるべく努力中です。なお同日には長谷川博一氏(東海女子大学)の講演、「私の心理臨床～虐待、犯罪、…いわゆる「加害者」の人との寄り添い～」を主催し、夕方には同窓生を招待しての懇親会を開きました。さらに全学同窓会から援助をうけ、各界で活躍中の本学卒業生を講師に招き、寄付講義「キャリア形成論」の実施を担当しています。

### 法学部 Law

法学部同窓会(理事長 柴田昌治 日本ガイシ(株)会長)の総会が平成16年10月17日(日)正午から、CALE(法政国際教育協力研究センター)で開催されました。同窓生約40名が参加、佐分学部長はじめ多数の教授陣も招かれ楽しいひとときをすごしました。原田副理事長の司会で会は進行しましたが、柴田理事長、丹羽関東支部支部長、佐分学部長の挨拶に続き、法学部教員による2つの講演「名古屋大学法学部のIT化について」(松浦教授)「アジア法整備支援事業について」(鮎京教授)もあり、ホットなテーマとして参加者も熱心に聞き入っておられました。

今回の総会では、理事会より副理事長交代の報告があり、成田清氏から田中清隆氏(弁護士S43年卒)に引き継がれました。関谷前理事長の音頭で乾杯の後、約1時間の懇親会を行い、岩本行正氏による閉会のご挨拶でお開きとなりました。

閉会の後神保教授の案内で法学部棟の見学、その後豊田講堂での全学同窓会総会にも参加頂きました。

CALEは法学部創立50周年事業として同窓生を中心とした寄附金によって創設され2001年に着工したもので、同窓会館の性格も併せ持っています。同期会等にも利用出来ますので、希望の同窓生はご連絡をお願いします。

## ■連絡先

電話：052-789-2312（法学部同窓会事務局）  
E-mail：dosokai@nomolog.nagoya-u.ac.jp  
また法学部のホームページに同窓会の欄が掲載されていますのでご覧ください。  
法学部ホームページ（<http://www.nomolog.nagoya-u.ac.jp>）



◀挨拶される柴田理事長



## 経済学部 Economics : Kitankai

経済学部同窓会は「社団法人キタン会」という組織で運営されています。

経済学部同窓会は、大正16年名古屋高等商業学校（同窓会キタン会）に始まり、名古屋経済専門学校を経て、キタン会と経済学部同窓会が合併し現在に至っている、永い伝統を持ち、社会からも高い評価を得ている同窓会です。

主な活動としては、経済学部と連携して実施しているビジネスセミナー、キタン講義、オープンセミナー、研究支援、業界説明会等を実施しています。キタン新聞を発行し会員相互の親睦と情報交換に力を入れています。本部事務所は栄町、全国に12支部があり、各支部では講演会やバス旅行、囲碁クラブ、俳句会、バーベキュー、野球観戦等が行われて親睦を深めています。

また、今年と同窓会創立85周年に当たりますので、記念行事として講演会、祝賀会、ゴルフ大会を計画しています。

皆様のご参加をお待ちしています。

## ■連絡先

<http://www.kitankai.or.jp/>  
E-mail: kitankai@crux.ocn.ne.jp  
TEL：052-963-6611（代表）



## 情報文化学部 Informatics and Sciences

情報文化学部・人間情報学研究科合同同窓会（情文・人情同窓会）は、昨年度2003年12月に正式に発足しました。情報文化学部では、平成16年（2004年）3月に、同窓会が発足してから最初の卒業生・修了生を送り出し、4月には最初の新生を迎えました。

そこで、2004年3月25日に同窓会主催で謝恩会をフレンドリー南部にて開催しました（写真は、修了生の記念写真撮影風景です。）また、2004年4月1日には同窓会主催で新生を迎えるためのウェルカムパーティーを開催しました。パーティーには、新生のほとんど、多数の先生方が出席されて相互の親睦を深めました。

2004年12月から1月にかけて、学部をあげての学年・研究室対抗のソフトボール大会を同窓会主催・学部後援で実施、また、2005年3月末には、卒業生の謝恩会を予定しています。

## ■連絡先

同窓会長 八田武志 代表幹事 北 栄輔



## 理学部・理学系研究科 Science

学科同窓会ごとの活動が中心だった理学部・理学系研究科にも2002年4月に全体をまとめた同窓会が発足しました。正式には、名古屋大学理学部・理学系研究科同窓会と称します。これまでの卒業・修了・満了生などは15000人を数え、2002年に同窓会名簿の発刊、設立総会を行いました。事務局の平野さんを中心に会長と各学科からの常任評議員により日常的な運営がなされています。

常任評議員は年4～5回の会合を持ち、会員名簿の更新、理学同窓会報の刊行と全会員への配布（4月発行の第3号ではフルカラーで同窓生の消息をお伝えします）、総会・懇親会の開催準備などを行っています。2005年からは支援会員制度が発足しました。また、今年の全学同窓会に合わせて総会・懇親会を行う予定です。

## ■連絡先

ご意見、会員消息、など何でも：  
名古屋大学理学研究科内 理学同窓会事務局  
電話：052-789-5564、FAX 052-789-2800  
e-mail: [cl@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp](mailto:cl@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp)



04年10月17日に全学同窓会に合わせて開催された、理学同窓会懇親会風景（於 野依記念物質科学研究館）

## 医学部医学科 Medicine

本会は、会員相互の親善、心身修練、学風の顕揚を図り、あわせて学友の共栄を期すことを目的とし、名古屋大学医学部学友会と称します。

**毎月学友時報（教授及び医学部学生にて構成）を発行**

学内・学外の先生方に送付いたしております。

**3年毎会員名簿も発行しています。**

**毎年学友大会を開催**

10月30日（土）名古屋観光ホテルにて学友会会員270名がご出席され記念講演（化学に美を求めて）には理化学研究所・名古屋大学特任教授（現在は「特別教授」）野依良治先生を講師にお迎えしました。続いて総会・懇親会が催され会員の先生方は歓談に花を咲かせ交流を深められました。

**また今年10月15日（土）名古屋観光ホテルにて開催**

皆様のご参加お待ちしております。

ご意見・ご寄稿宜しくお願ひ申し上げます。

### ■連絡先

〒464-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65  
名古屋大学医学部学友会  
(052) 744-2512

## 医学部保健学科 Medicine-Health Sciences

保健学科卒業生の皆さんへ

保健学科が第1期生を卒業生として送り出した時期に、保健学科同窓会を設立する動きがありました。しかし保健学科の5専攻はそれぞれに前身の専門学校・医療短大部の同窓会を持ち、独自の活動しており、結果として保健学科全体の同窓会を作ることは時期尚早という結論に達しました。しかし、このままでは卒業生がバラバラになってしまうので、せめて卒業生の名簿だけは作って行こうということになり、「保健学科名簿管理委員会」が組織されました。現在、各専攻の代表2名に委員になっていただき、卒業時に名簿を作成していただいております。この名簿は全学同窓会の名簿と共通のフォーマットを使用しています。したがって、全学同窓会の名簿には皆さんの卒業時のデータが入っています。そこで、お願いがあります。卒業後、勤務先や住所などに変更があった方は、全学同窓会のHPへアクセスして、ご自分のデータを更新して下さい。個人のデータへは、その人本人からしかアクセスできず、その人自身でしか更新できないシステムになっていますので、安心して作業してください。

名簿管理委員会は、今後も保健学科同窓会設立をめざして行きたいと思っています。その時は皆さん、是非結集してください。

### ■連絡先

医学部保健学科全学同窓会幹事 河村守雄  
TEL & FAX 052-719-1364  
E-mail: kawamura@met.nagoya-u.ac.jp

## 工学部・工学研究科 Engineering

本同窓会には工学部・工学研究科に属する会員数1500名以上の7学科から100名程度の2学科までの14学科・専攻が集まり、会員名簿の発行、総会の開催、その他、4年に一度の同窓会名簿の発行など、会の目的達成に必要な事業を行っています。

### ■H16年度事業・活動の概要

#### ①役員会の開催

- ・H16年度評議員会（H16年8月6日）
- ・幹事会（年数回）
- ・常任幹事会（年数回）

#### ②全学同窓会への参加と支援

H16年10月17日（日）開催の全学同窓会総会への参加を各学科同窓会に呼びかける。

③工学部・工学研究科同窓会HPの立ち上げと管理  
H16年10月から大学サーバーの利用により、工学部HP（<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/engg/index.html>）を作成し、事業案内と広報活動を行っている。なお、本HPは、各学科同窓会とリンクしている。

#### ④工学部・工学研究科同窓会総会の開催（参加者約60名）

H16年11月20日（土）、名古屋大学グリーンサロン、レストラン「花の木」にて開催した。午後2時～3時半まで工学部研究室見学。会長挨拶、研究科長挨拶の後、学術講演「カーボンナノチューブについて」齊藤弥八教授（本学部応用物理学科S50年卒）を行った。また、午後5時からは学内北部生協でビアパーティーを行い歓談した。

### ■連絡先

工学部・工学研究科庶務幹事：

名古屋大学マイクロ・ナノシステム工学専攻  
吉川典彦

電話・FAX：052-789-4411

E-mail: yoshi@nuae.nagoya-u.ac.jp

## 建築学教室 Architecture : Hachiitsukai

### ■活動の概要

#### ①毎年の行事

- ・総会 会の名前に因み8月1日前後に開催（2004年は7月31日環境学総合館で開催）
- ・会誌（名簿）の発行 2003年末に40周年記念誌を発行したので、今年は見送り今後は会誌はホームページに移行、名簿はCD化していく方向で検討中
- ・建築学特論への協賛
- ・八佾賞の授与 卒業設計最優秀者を表彰

②不定期 教官の退官記念事業、教室周年事業への協力また、関東圏には元気会と称する支部もあり、活発な交流活動を行っています。

### ■今後の課題

現在、他の同窓会と同じく、若年層の参加意識の薄さ、会費（3000円／年）納入率の悪さなどの問題を抱え、経費削減をしながら、活動の活発化に取り組もうとしております。また、創設40周年を過ぎ、定

年を迎え、第2の人生を迎える会員の増加を見込み、今後の活動を再検討していきたいと思っております。

- ・ 会員相互の親睦の事業としてゴルフコンペなどの開催
- ・ 教室への貢献事業の多様化
- ・ 社会への貢献事業としての講師バンクの整備

#### ■連絡先

名古屋大学建築学教室内 FAX: 052-789-3773  
E-mail: dousoukai@corot.nuac.nagoya-u.ac.jp  
八佾会 建築学教室同窓会

## 農学部 Agriculture

平成16年6月5日名古屋大学農学部において総会を行い、平成15年度の事業・決算報告を行った後、平成16年度役員を選出し、平成16年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、佐々木卓治氏（独立行政法人農業生物資源研究所ゲノム研究グループ長・旧農学部教官）による講演「イネゲノム解析研究で分かること」を開催しました。イネゲノム研究では最前線の研究者であり、また良き先生でもある佐々木氏の肉声を聞こうと、講演会には同窓生の他、現役の学生、大学院生のみなさんが大勢集まりました。講演会終了後、シンポジウム内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催し、親睦を深めましたが、残念ながら懇親会参加人数が少なく、参加者を増やすことがこれからの課題となっています。

平成17年2月に同窓会会員録を発行する予定で、これまでに延べ10,700人の会員に対して住所録調査を実施し、名簿の充実に努めています。また、平成17年3月には第1回卒業生が卒業50周年を迎え、平成18年には農学部同窓会創立50周年を迎えることから、記念行事の企画を立案しています。

農学部同窓会ホームページでは、農学部の近況や同窓会の開催案内を掲載し、情報発信に努めています。

#### ■連絡先

dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp  
農学部同窓会（セコイア会）  
ホームページ: <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>

名古屋大学  
農学部同窓会  
セコイア会



## 国際開発研究科 International Development

国際開発研究科同窓会は、同研究科の設立10周年を期に2000年に立ち上げられました。総会の開催やニューズレターの発行、会員名簿の更新などの事業を行っており、2004年度の総会は10月30日に行なわれました。研究科・同窓会ともまだ歴史は浅いのですが、すでに卒業生は国内外の多様な分野で活躍しており、卒業生を招いた就職セミナー等の機会を設けて、在校生との橋渡し役もつとめています。今後は、多数の外国人留学生帰国者を含めた未加入者の勧誘を重点に、ネットワークの強化につとめながら事業展開をはかりたいと考えています。

#### ■連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町名古屋大学大学院国際開発研究科同窓会事務局  
電子メール: alumni@gsid.nagoya-u.ac.jp  
ホームページ: <http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/alumin/index-jp.html>

## 国際言語文化研究科 Languages and Cultures

日本語文化専攻では、修了生の多くが国内外の日本語教育機関で日本語研究、日本語教育に従事しています。本同窓会はそうした修了生を中心に作られ、各地の日本語研究、日本語教育について情報交換をする学術交流の場となっています。同窓会の名称や名簿はなく、不定期に気軽に集まって旧交を温めています。学会組織とは違いますが、日本語教育の専門家がたくさん集まるため、まるで学術サロンのような雰囲気となっています。

本専攻を修了した留学生は、母国の日本語教育機関で日本語教育の専門家として活躍しています。こうした元留学生とのネットワークも大切に築いていきます。将来は、世界各地で研究会を兼ねた同窓会を開催したいと、今年も名古屋で集まったときにみんなで話し合っていました。

#### ■連絡先

国際言語文化研究科助教授 杉村 泰  
TEL: 052-789-4207 (研究室)  
E-mail: sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp  
日本語教育研究者の同窓会

## 環境学研究科 Environmental Studies

地球環境問題は多岐にわたる要因が複雑に絡み合っており、研究者一人の努力で解決できるようなものではありません。従来の理学、工学、人文科学といった各々の専門領域を越えてその力を結集して、この困難な道程に挑戦しようという熱い情熱のもと、平成13年に「名古屋大学大学院環境学研究科」が創設されました。

この3年間の学位授与者は、修士学位276名、博士学位（課程）23名、博士学位（論文）3名です。まだ同窓生が少ないため環境学研究科同窓会は設立されていませんが、現在は同窓会準備会が中心となり今後の同窓会設立に向けて、同窓生の名簿作成・更新、環境学研究科広報誌「KWAN」の同窓生への送付などを行っています。修了後、連絡先に変更がありましたら、ご連絡下さい。

#### ■連絡先

環境学研究科同窓会準備会 代表幹事 竹内 誠  
TEL: 052-789-2525  
E-mail: takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp

# 大学ニュース Nagoya University News

The following are news of Nagoya University regarding its academic and social activities, as well as students' events.

- Academic and educational activities
- Symposium, Open forum, etc.
- Nagoya University Festival: Meidaisai

## 平成16年度「21世紀 COE プログラム」に採択される

### － 本学の研究教育拠点14件に －

平成16年度「21世紀 COE プログラム」の審査結果が7月21日（水）、公表され、本学からは「計算科学フロンティア」（拠点リーダー：金田行雄工学研究科教授）の1件が採択されました。本学は、これにより平成14年度採択の7件、15年度採択の6件と合わせて計14件の研究教育拠点を有することになりました。

21世紀 COE プログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野ごとに形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な若手研究者の育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としています。COE（センター・オブ・エクセレンス）は「卓越した拠点」の意味です。

## 平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択される

### － 本学は2年連続の採択 －

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」の審査結果が7月30日（金）、公表され、本学が応募した「教員の自発的な授業改善の促進・支援－授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成－」（取組部局：高等教育研究センター）が採択されました。本学は、昨年度の「創成型工学教育支援プログラム」（取組部局：工学部・大学院工学研究科）に続き、2年連続で採択されたことになります。

特色ある大学教育支援プログラムは、大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供することで、今後の高等教育の改善に活用します。これにより、国公立大学を通じ、教育改善の取組について、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

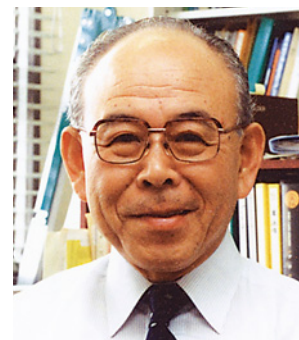
## 赤崎名誉教授が文化功労者として顕彰される

赤崎勇名誉教授が、今年度の文化功労者に選ばれ、平成16（2004）年11月4日（木）、東京都内のホテルにおいて、顕彰されました。本学では、平成10年の野依良治特別教授以来、8人目の栄誉となります。

赤崎名誉教授は、本学在職中の1985年に、最高純度の窒化ガリウム（GaN）結晶を世界で初めて創製し、これを用いて、1989年に「GaN-p-n 接合型高性能青色発光ダイオード」を世界に先駆けて開発しました。当時、光の3原色のうち最も難しいとされていた「青」色を発光する半導体の開発は不可能とされていましたが、その常識を覆す世界初の快挙でした。赤崎名誉教授が開発した青色発光ダイオード（青色 LED）は、豊田合成株式会社により実用化され、現在、信号機や大型ディスプレイなどに広く利用されています。

赤崎名誉教授が開発した青色 LED の特許料を活用して、本学では、「赤崎記念研究事業」をスタートさせ、2001年には、大学院工学研究科に「赤崎記念研究センター」を創設しました。さらに、「赤崎記念研究館」を建設することを決定し、建設の準備を進めているところです。

また、赤崎名誉教授の文化功労者顕彰に敬意を表し、名古屋大学特別教授の称号が平野総長より授与されました。これは、本学の大学教員または本学の大学教員であった者のうち、ノーベル賞、フィールズ賞、文化勲章、文化功労者又はそれらと同等の研究教育活動の功績をたたえる賞若しくは顕彰を受けた者に対し授与されるもので、野依良治特別教授（理化学研究所理事長）につづき、2人目の授与となります。



赤崎勇特別教授

朝焼けに輝く豊田講堂の時計台（文字盤に青色発光ダイオードを使用）



## 社会貢献〈平成16(2004)年度〉

### 野依記念物質化学研究館記念シンポジウム「科学その美しきもの」

8/9 中日新聞社との共催。約800名が参加し、科学と芸術を貫く「美」や日本の文化・教育について多様な意見が交わされた。野依特別教授は、若者に対し、「今の日本では、言語力の衰退が深刻であり、これが日本文化の衰退になっています。日本の文化を大切にし、世界的に尊敬され感謝される国にしてほしい。」と呼びかけた。

### テクノシンポジウム名大「プラズマ技術の最新動向と産学連携への展開—産学連携プラズマ特区の形成へ向けて—」

7/27 大学院工学研究科及びエコトピア科学研究機構が開催。企業研究者、技術者を中心に177名が参加し、企業のプラズマ研究に寄せる関心や、産学連携への熱意が感じられる有意義な内容となった。

### 男女共同参画社会推進シンポジウム

8/27 愛知県、名古屋市、愛知県経営者協会、連合愛知、名古屋大学の5者が連携し、男女共同参画社会を推進することを目的として設立された「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」の設立を記念して開催。平野総長は、「このような産学官連携の枠組み構築は、全国に先例がなく、本フォーラムにはこの分野における産学官連携のパイオニア的な役割が期待される」と述べた。講演者からは、共同参画社会の将来像・家族像をめぐる報告や、トヨタ自動車(株)における取り組みとして、事業所内保育所の成功例が報告された。

### 「東海医療情報ネットワークコンソーシアム」設立記念シンポジウム

9/11 このコンソーシアムは、「いつでも、どこでも、誰でももっとも適切な医療を安心して受けられる社会」の実現を支援するため、東海地区を中心とした情報技術関連産業、大学を始めとするアカデミア、医療を実践する各種医療機関および行政関係部門との連携を図り、医療の向上に向けた自由な意見交換の場を提供しようとするもの。設立を契機に、学内外の更なる協力が得られることが期待される。

### 国際シンポジウム「開発における法の役割—法の開発:その理論と展望—」

10/22-23 法政国際教育協力センター主催

### 博物館による野外観察園見学会

5/8 東山キャンパスの一角にある約4000㎡の野外観察

園で、一般市民や親子連れを含め22名が、植物の自然史や人間との関わりを学びつつ植物を鑑賞した。

### シンポジウム「宇宙はおもしろい」

5/30 太陽地球環境研究所と豊川市の共催。子供たちを含めた一般市民に対して宇宙への興味を育むよい機会となった。

### 第5回「中学生のためのネイチャーウォッチング」

5/8 大学博物館と名古屋市科学館の共催。知多半島内海の礫ヶ浦海岸で36名が化石探しに挑戦したり、磯の生物を観察して楽しんだ。

### 農業ふれあい教室「お米を科学する」

5/8-11/6 大学院生命農学研究科主催。今年は、イネの種蒔きから収穫に至る作業の中で、自然に親しみ、作物を育てる楽しさを体験する。また、作業を通じて、イネの一生を科学的に観察しながら、植物についての知識を深めることに重点が置かれている。小学校2年生から中学校2年生までの生徒とその保護者28名が参加した。

### 大学Jr.サイエンス「石がいつできたか調べよう」

7/26-28 年代測定総合研究センター主催。小中学生、教科担任向け体験学習。子供達に自然を解き明かすことの素晴らしさを体験してもらうこと、研究の場である大学の雰囲気を感じてもらうことを目的としている。

### 「テクノフロンティアセミナー」

8/2-4 工学部が高校生対象に開催。電子・情報分野の最先端の研究を実験を通じて理解し、社会との関わりが強い工学の面白さと不思議を体験してもらうことを目的としている。また、参加者同士の交流や大学生活を実感できるような工夫を凝らしている。工学部では、高校生向けに「テクノサイエンスセミナー 体験学習:体感する物理工学の世界」も開催し、86名が参加した。

### 第15回日本数学コンクール・第8回日本ジュニア数学コンクール「数学は思考の冒険です!」

8/22 21世紀の新しい科学・技術の基盤を担う夢とロマンを秘めた若者の才能を発掘し、育成していることを目的に、中・高生対象に毎年開催されている。考えて楽しい問題を提供し、ゆっくり自由に考えてもらい、多彩な才能を評価することを特徴としている。全国から337名の参加応募があった。また、大学院多元数理科学研究科でも高校生向け現代数学講座が行われている。

### 名古屋大学公開講座（全学企画）「『見る』－認知・認識への挑戦」

8/24～10/14 18歳以上の方を対象に、様々な学問領域の専門家から15回に亘り、上記のテーマについて講義が行われた。

### ラジオ放送公開講座（東海ラジオ）名大リレーセミナー「高齢社会の設計」

7/4～9/5放送。

### オープンカレッジ「自由奔放!サイエンス」

9/11～2005/3/5 大学を目指す人たちに、大学の研

究室で行われている最新の研究やその熱意をできるだけわかりやすく伝えることを目的とする。本学のさまざまな専門分野の教員が、中高生にもわかる言葉で最新の研究について講義する。

～これ以外にも、博物館や図書館では、企画展や講演会を随時行っています。是非ご来館下さい。～

～この情報は、『名大トピックス』（<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>）から転載いたしました。今後の開催予定も、同サイト上でご覧いただけます。～

## 第46回名大祭へのお誘い

### Welcome to the Nagoya University Festival : Meidaisai

恒例の名大祭を今年も下記の通り6月に開催します。現在、在校生による実行委員会を中心に、いつもの年に勝る内容で盛り上げるべく鋭意計画中です。

同窓会会員の皆様、年ごとに新しく生まれ変わりつつあるキャンパスの中で行われる名大祭にぜひお出かけください。

- (1) 日時 2005年6月2日（木）午後1時～5日（日）午後8時まで
- (2) 場所 名古屋大学東山キャンパス（地下鉄名古屋大学駅下車）
- (3) テーマ 「道草」（道草するような気分で気楽に立ち寄れるようなイメージ）  
研究公開、模擬店、フリーマーケットなどの企画で、日頃の学生たちの活動を発信し社会発展に寄与することをめざします。ゴミ分別などを通して環境への意識を高め、地域との連携を深める活動もとり入れています。
- (4) 連絡先 名大祭本部実行委員会（委員長 村田靖）  
電話：052-789-5178  
電子メール：mail@meidaisai.com  
URL: <http://meidaisai.com>



名大祭本部実行委員会（学生会館第七集会室）

The 46th Meidaisai will be held on 2 - 5 June, 2005. Members of the Working Committee are preparing the festival with a lot of energy. Meidaisai festivals are traditional at Nagoya University and have continued for 45 years, each year in a different way, but with the same objectives of presenting the students' activities and contributing to society. Everyone is welcome to the festival to feel the energy and power of Nagoya University students.



昨年の名大祭のひとつ

# 事務局からのお知らせ From the NUAL Office

## ●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会は、皆様のお力添えで平成14年10月に設立されました。創設年である平成14年度と15年度については、会員の皆様に設立基金への寄附をお願いし、多くのご協力いただきました。ご支援に心より感謝申し上げます。本会の経費は、名古屋大学全学同窓会会則第19条によって、支援会員（会員うち支援会費納入者）の会費等をもって充てることになっております。現在名簿の整備、支部の創設、ニューズレターの発行、講演会や大学行事への協力、学生活動支援、行事後援などの活動をより充実させるために、財政基盤の確立が急務です。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

NUAL activities are carried out with donations from supporting members. Your contribution will be very much appreciated.

## ○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member ※：一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution：一口 50,000円

## ○振込先 Deposit Account

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

名古屋大学全学同窓会

※支援会費の銀行からの自動引落をご希望いただける方は、同窓会事務局にご連絡ください。

## ●入会およびインターネット会員登録について NUAL membership registration

名古屋大学全学同窓会への入会および同窓会名簿への登録についてご案内します。

Your membership registration and renewal of your data through the following web-page will be very much appreciated.

## ○新卒業生・修了生

会則に従い、自動的に名古屋大学全学同窓会の会員としてお名前、生年月日、卒業年が名簿に登録されます。同窓会ホームページには、本人だけがアクセスできる現住所、電話、E-mail、勤務先等々の欄があり、ご自身での記載・変更をお願いします。

## ○未登録同窓生・元職員

在学・在職年度や部局・身分によっては現時点で名簿に登録されていない場合があります。ホームページを通して新規登録をお願いいたします。

名簿は社会貢献人材バンクとして全学同窓会及び名古屋大学の活動に利用しますが、個人情報本人の承諾なしに公表されることはありません。最新の会員情報が得られますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

## ●最近、同窓会事務局に「名大ジャーナル」についてのお問い合わせが多く寄せられています。

「名大ジャーナル」は、大学の公認サークル・団体ではありません。また、同窓会とも何ら関係はありませんので、ご注意ください。

## 編集後記

名古屋大学全学同窓会が3年目の活動を展開しています。同窓生が社会で活躍し大学を支援することは、名古屋大学が持つ力を高め、世界に発信することにつながります。厳しい社会の中にあっても戦略を持って大学と連携すること、同時に大きな視野にたつて大学の研究・教育を支え育てていくことの大切さを感じながら今号の編集を終えました。

(全学同窓会広報委員会)

**NUAL** Newsletter No.4 平成 17 (2005) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

**NUAL 名古屋大学全学同窓会**

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail [nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会